

チャノキイロアザミウマ

○ 被害と発生生態

幼果期～9月頃にかけて果実表面を吸汁する。加害痕は、果梗の周囲では灰褐色のリング状、果側部や果頂部では不定形の雲状や放射状の被害となり、外観品質を損ねる。

成虫は黄色、体長 0.8mm で細長く、微小なため肉眼による観察で見つけることは難しい。

寄主植物は 42 科 100 種にのぼる。年間 8～10 回程度発生し、カンキツへは周囲のイヌマキやサンゴジュ等で増殖したものが6月下旬から9月頃まで繰り返し飛来し、果実を加害する。9月中旬以降になるとカンキツの果実への寄生は少なくなり、10月下旬以降になると土中や樹皮の割れ目に入って越冬する。

○ 防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

- ・チャ、イヌマキ、サンゴジュ等はチャノキイロアザミウマの発生源となるので付近にはできるだけ植えない。防風垣がサンゴジュやイヌマキの場合、刈込みは夏季に行うとチャノキイロアザミウマがカンキツへ移動する要因となるので冬～早春に行う。
- ・光反射シートマルチの設置で被害軽減が図れる。この場合、栽培樹による樹冠面積占有面積率が 60 %程度までで、株元に木もれ日が見られる状態であれば効果が得られる。

(イ) 薬剤防除

- ・防除適期は、主に6月中下旬と8月中下旬の2回である。
- ・発生が多い場合は7～8月に防除を追加する必要がある。
- ・毎年被害が発生する園では、他害虫の防除時期に同時防除ができるような防除体系とする。



チャノキイロアザミウマ成虫



果梗部被害



果頂部被害

